

調剤レセプトにおけるコメントコードの出現率 と後発医薬品割合の分析

保険局調査課
(平成29年12月)

分析の主旨

- 「診療報酬請求書等の記載要領等について」等の一部改正について(平成28年3月25日付 厚生労働省保険局医療課長・歯科医療管理官通知)(参考1)において、一般名処方が行われた医薬品について後発医薬品を調剤しなかった場合は、その理由について調剤報酬明細書の摘要欄に記載することになっている。具体的には、

「患者の意向」

「保険薬局の備蓄」

「後発医薬品なし」

「その他」

から最も当てはまる理由をひとつ記載することとされている。

(平成26年度診療報酬改定で導入)

- 本分析では、平成29年3月および平成28年3月の調剤レセプトデータを対象に、全レセプト件数のうち、上記のコメントコードが出現したレセプト件数の割合(出現率)を年齢階級別、都道府県別(薬局所在地別)に集計し、後発医薬品割合(数量ベース)との関係性について分析を行った。
- 本分析のバックデータは下記URLにて公表する。

(http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryohoken/database/zenpan/xls/cyouzai_doukou_topics_h29_12.xls)

(参考 1) 「診療報酬請求書等の記載要領について」(昭和51年8月7日保険発第82号)
(最終改正:平成28年3月25日(保医発0325第6号))(一部抜粋)

別添1

診療報酬請求書等の記載要領

II 診療報酬明細書及び診療報酬明細書の記載要領

第2 調剤報酬明細書の記載要領(様式第5)

2 調剤報酬明細書に関する事項

(28) 「摘要」欄について

ア ~ シ(略)

ス 一般名処方が行われた医薬品について後発医薬品を調剤しなかった場合は、その理由について、「患者の意向」、「保険薬局の備蓄」、「後発医薬品なし」又は「その他」から最も当てはまる理由をひとつ記載すること。

セ ~ タ(略)

(参考 2) レセプト電算処理システム 電子レセプトの作成手引きー調剤ー
(平成28年7月版編集 社会保険診療報酬支払基金)(一部抜粋)

第10章 摘要欄レコードの記録方法

1 ~ 4(略)

5 一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由の記録
次のコメントコードから、最も当てはまる理由に該当するコードをレセプト単位で一つ選択して記録します。

コメントコード	漢字名称
820000167	後発医薬品を調剤しなかった理由: 患者の意向
820000168	後発医薬品を調剤しなかった理由: 保険薬局の備蓄
820000169	後発医薬品を調剤しなかった理由: 後発医薬品なし
820000170	後発医薬品を調剤しなかった理由: その他

集計対象、集計方法などについて

(1) 集計対象

2016年3月、2017年3月調剤分(4月審査分)の調剤レセプト(電算処理分)のデータ

(2) 集計方法

- ① 年齢階級別または都道府県別(薬局所在地別)に、全ての調剤レセプトの件数のうち、各コメントコードの記載を含む調剤レセプトの件数の割合(以下「出現率」という。)を算出。

$$\text{出現率(\%)} = \frac{\text{当該コメントコードを含む調剤レセプト件数}}{\text{全ての調剤レセプト件数}} \times 100$$

注1) 出現率はレセプト件数単位の割合であり、処方せん枚数単位の割合ではない。

注2) 上記の出現率はデータの制約上、全ての調剤レセプト件数を分母としている。このため、出現率は、全処方に占める一般名処方の割合等の影響も受けることに留意が必要。

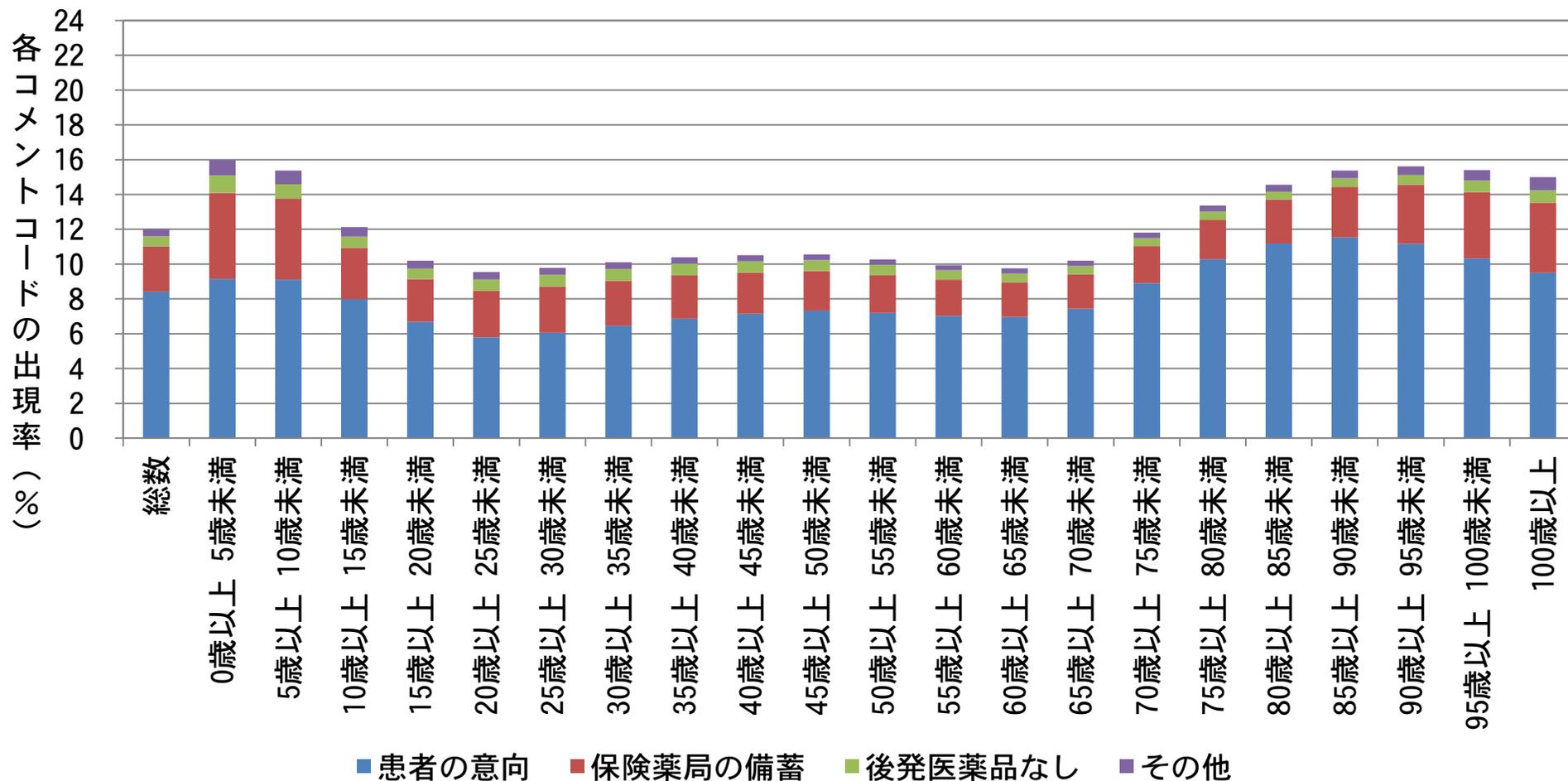
- ② 年齢階級別の分析として、各コメントコードの出現率(「患者の意向(820000167)」及び「保険薬局の備蓄(820000168)」に係るものに限る。)と後発医薬品割合(数量ベース、新指標、以下同じ。)を比較。
- ③ 都道府県別の分析として、各コメントコードの出現率(「患者の意向(820000167)」及び「保険薬局の備蓄(820000168)」に係るものに限る。)と後発医薬品割合の散布図を作成し、相関係数(r)を算出。

$$r = \frac{\sum_{i=p_1}^n (X_i - \bar{X})(Y_i - \bar{Y})}{\sqrt{\sum_{i=p_1}^n (X_i - \bar{X})^2} \sqrt{\sum_{i=p_1}^n (Y_i - \bar{Y})^2}}$$

$p_1 =$ 北海道, $p_2 =$ 青森, \dots , $p_{47} =$ 沖縄
 $X_i =$ 都道府県*i*におけるコメントコードの出現率
 $Y_i =$ 都道府県*i*における後発医薬品割合

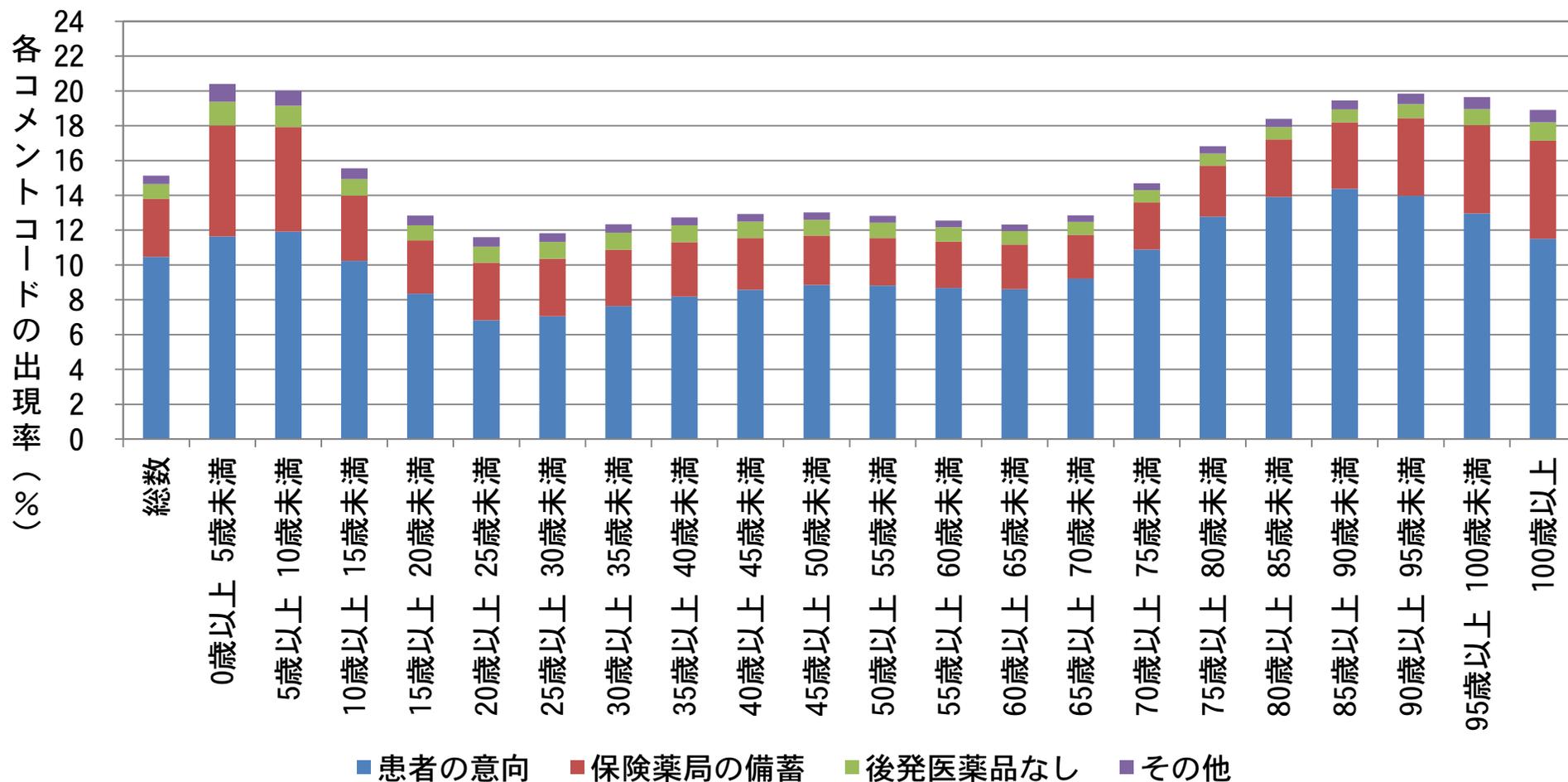
年齢階級別にみたコメントコード出現率（2016年3月）

- 年齢階級ごとに2016年3月のコメントコードの出現率をみると、
 - ・どの年齢階級でも4つのコメントコードのうち「患者の意向」の出現率が最も高い。
 - ・0歳から15歳未満や70歳以上で「患者の意向」を中心に出現率が高い。
 - ・「保険薬局の備蓄」の出現率は10歳未満の階級でやや高い。
 - ・「後発医薬品なし」「その他」の出現率はどの年齢階級でも低い。



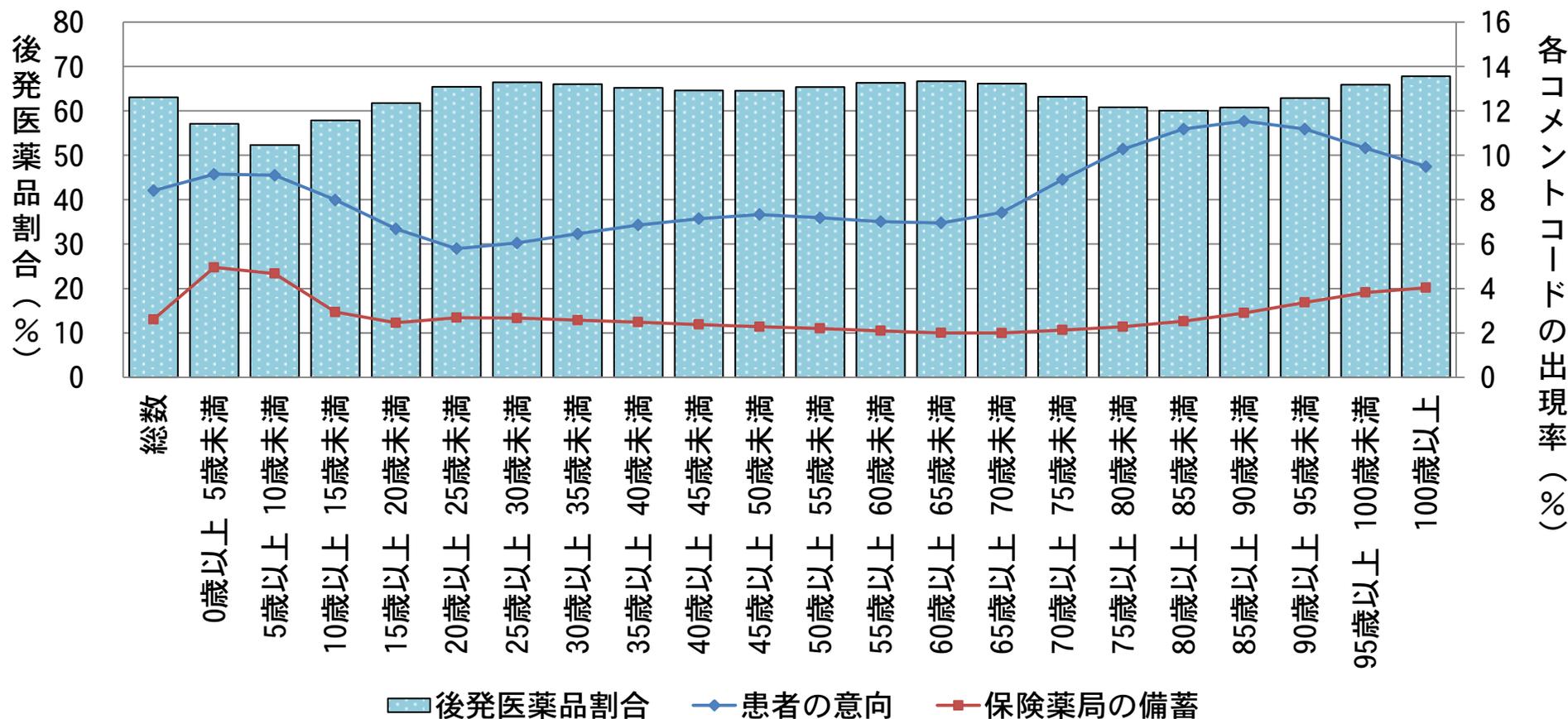
年齢階級別にみたコメントコード出現率（2017年3月）

- 年齢階級ごとに2017年3月のコメントコードの出現率を2016年3月と比較すると、
 - ・年齢階級の全体的な傾向は2016年3月と大きく変わらない。
 - ・2016年3月と比べて全般的に出現率が高く、特に若年層、高齢層で大きく伸びている。
 - ・「患者の意向」、「保険薬局の備蓄」ともに出現率が高まっている。



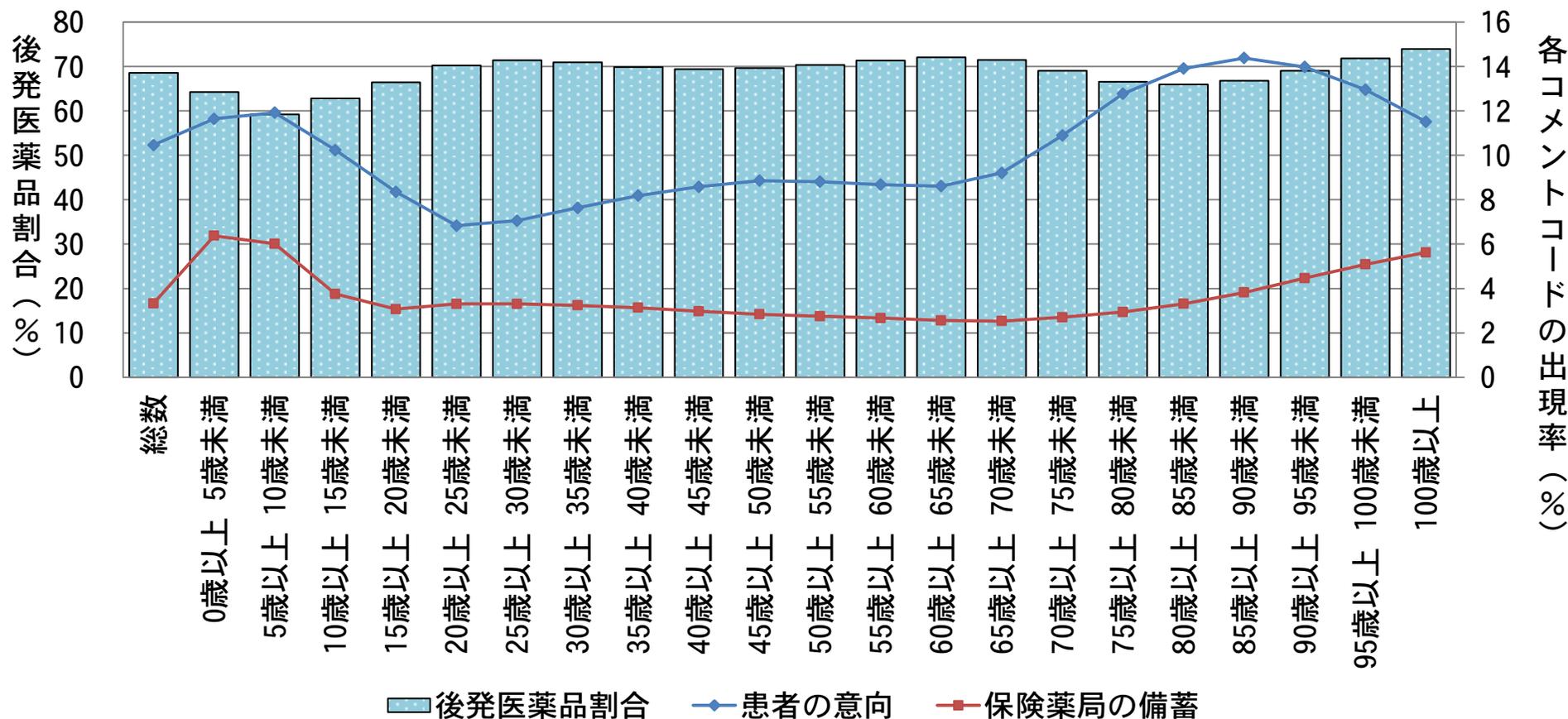
年齢階級別にみたコメントコード（患者の意向、保険薬局の備蓄） の出現率と後発医薬品割合との関係（2016年3月）

- 年齢階級ごとに2016年3月のコメントコードの出現率と後発医薬品割合を比べると、
 - ・コメントコードの出現率が高いほど後発医薬品割合が低くなっている。
 - ・「患者の意向」の出現率が高い10歳未満及び80歳代で、後発医薬品割合が低い。
 - ・10歳未満では「保険薬局の備蓄」の出現率も高く、後発医薬品割合が低くなる一因となっていることが考えられる。



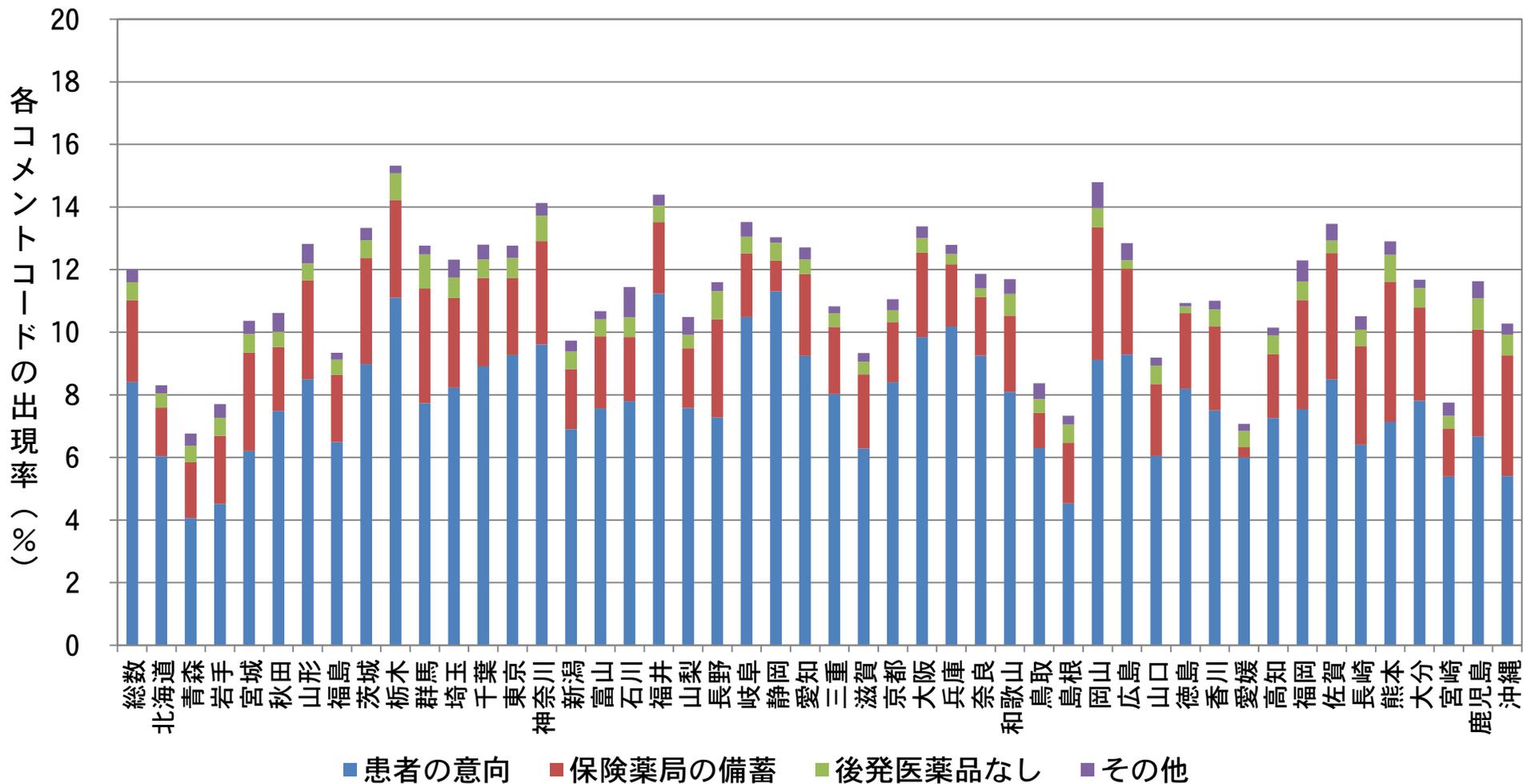
年齢階級別にみたコメントコード（患者の意向、保険薬局の備蓄） の出現率と後発医薬品割合との関係（2017年3月）

- 年齢階級ごとに2017年3月のコメントコードの出現率と後発医薬品割合を比べると、
- ・2016年3月と比べて、コメントコードの出現率が高まるなかで、後発医薬品割合も上昇している。
 - ・年齢階級別の傾向は2016年3月と大きく変わらない。



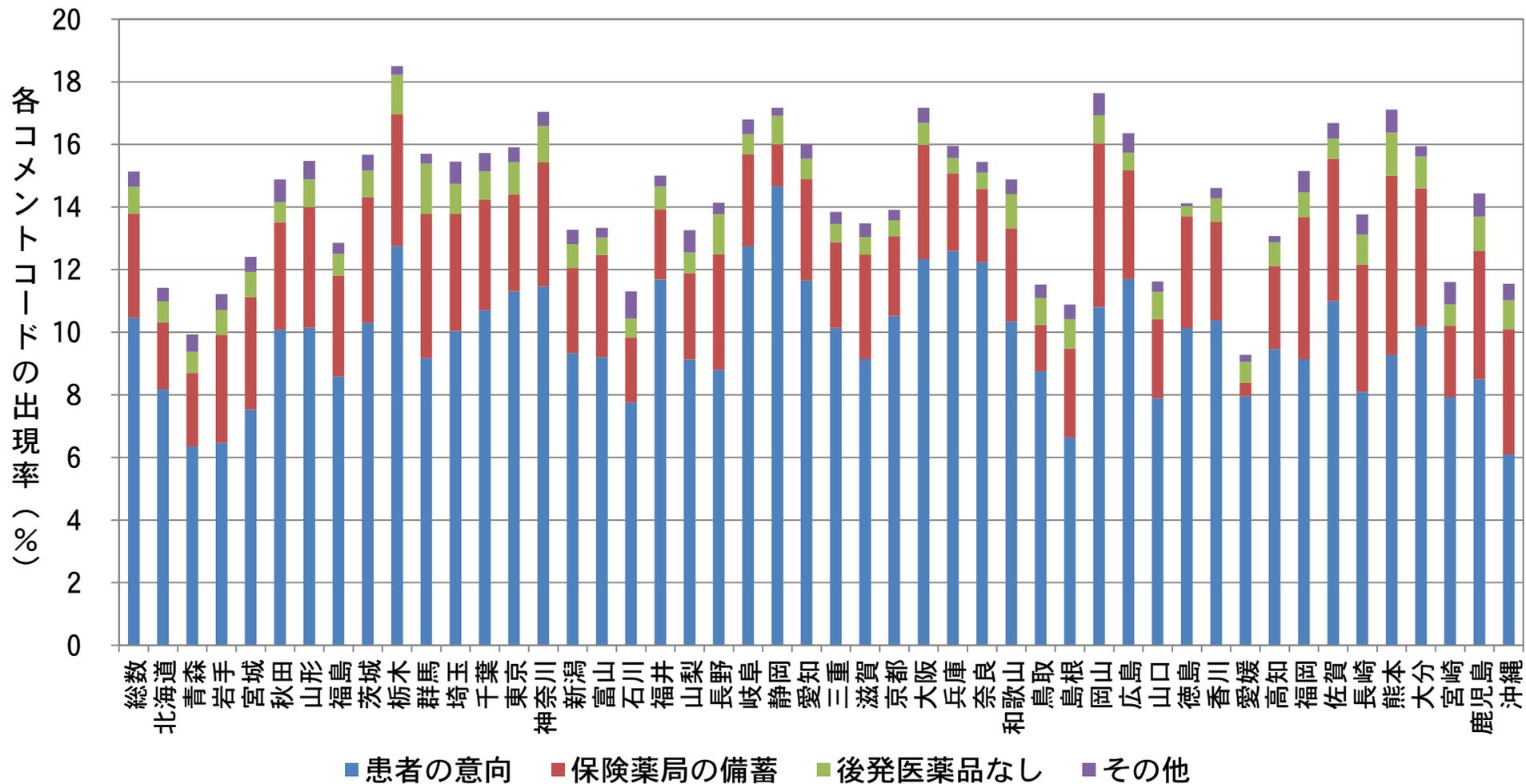
都道府県別にみたコメントコードの出現率（2016年3月）

- 都道府県ごとに2016年3月のコメントコードの出現率をみると、
 - ・コメントコードの出現率に地域差がみられる。
 - ・特に、「患者の意向」の出現率の地域差が大きくなっている一方、「保険薬局の備蓄」「後発医薬品なし」「その他」の地域差は相対的に小さい。



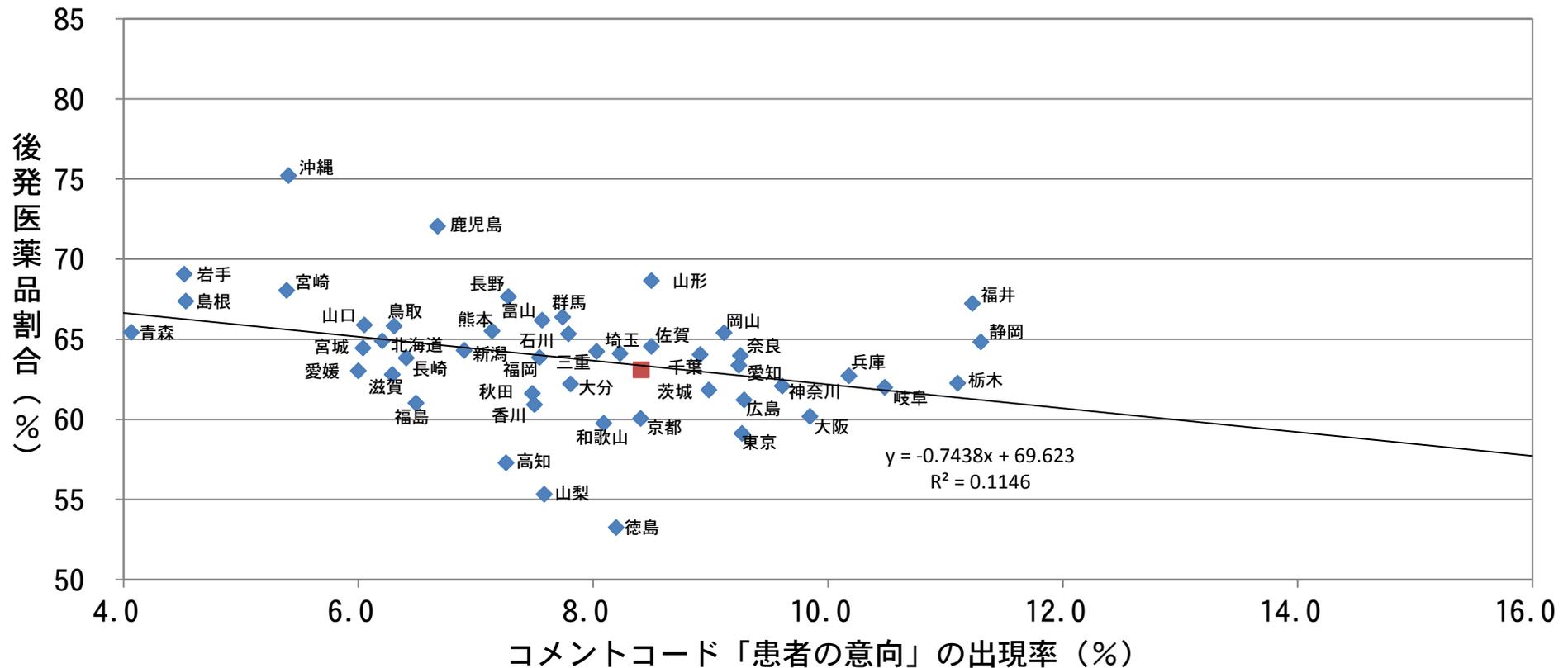
都道府県別にみたコメントコードの出現率（2017年3月）

- 都道府県ごとに2017年3月のコメントコードの出現率をみると、
 - ・2016年3月と比べて、全体的にどのコメントコードも出現率が上昇している。
 - ・地域差が大きいことには変わりはない。



都道府県別にみたコメントコードの出現率（患者の意向）と 後発医薬品割合の相関性（2016年3月）

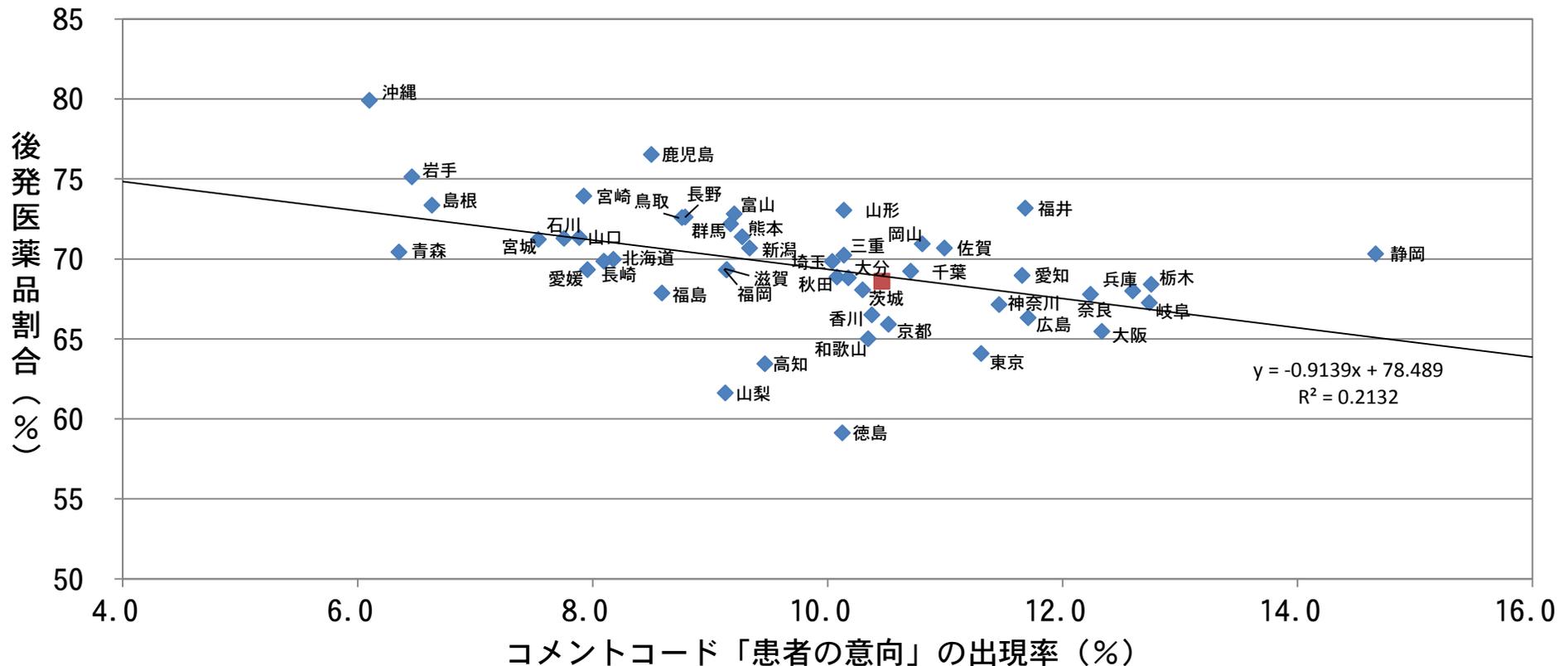
- 都道府県ごとに2016年3月のコメントコード「患者の意向」の出現率と、後発医薬品割合との相関性をみると、
- ・緩やかな負の相関（相関係数-0.34）すなわち、出現率が高い都道府県ほど後発医薬品割合が低くなる傾向が観察された。
 - ・東京、大阪などの大都市圏は全国平均よりも右下（出現率が高く、後発医薬品割合が低い）に位置している。



注）赤点は総数（全国計）

都道府県別にみたコメントコードの出現率（患者の意向）と 後発医薬品割合の相関性（2017年3月）

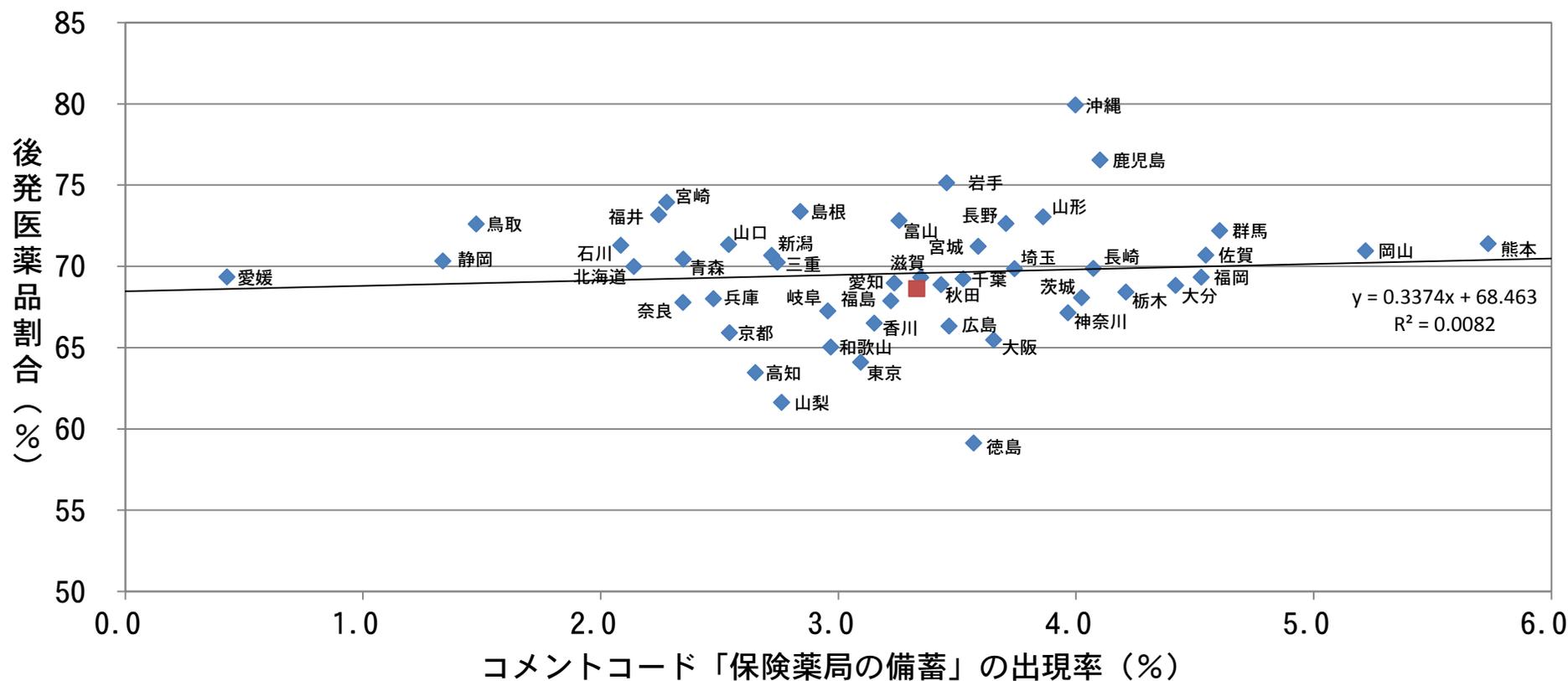
- 都道府県ごとに2017年3月のコメントコード「患者の意向」の出現率と、後発医薬品割合との相関性をみると、
- ・緩やかな負の相関（相関係数-0.46）すなわち、出現率が高い都道府県ほど後発医薬品割合が低くなる傾向が観察された。その傾向は2016年3月と比べてやや強まっている。



注）赤点は総数（全国計）

都道府県別にみたコメントコードの出現率（保険薬局の備蓄）と 後発医薬品割合の関係性（2017年3月）

- 都道府県ごとに2017年3月のコメントコード「保険薬局の備蓄」の出現率と、後発医薬品割合との相関性をみると、
・相関はほぼ見られない(相関係数0.09)。

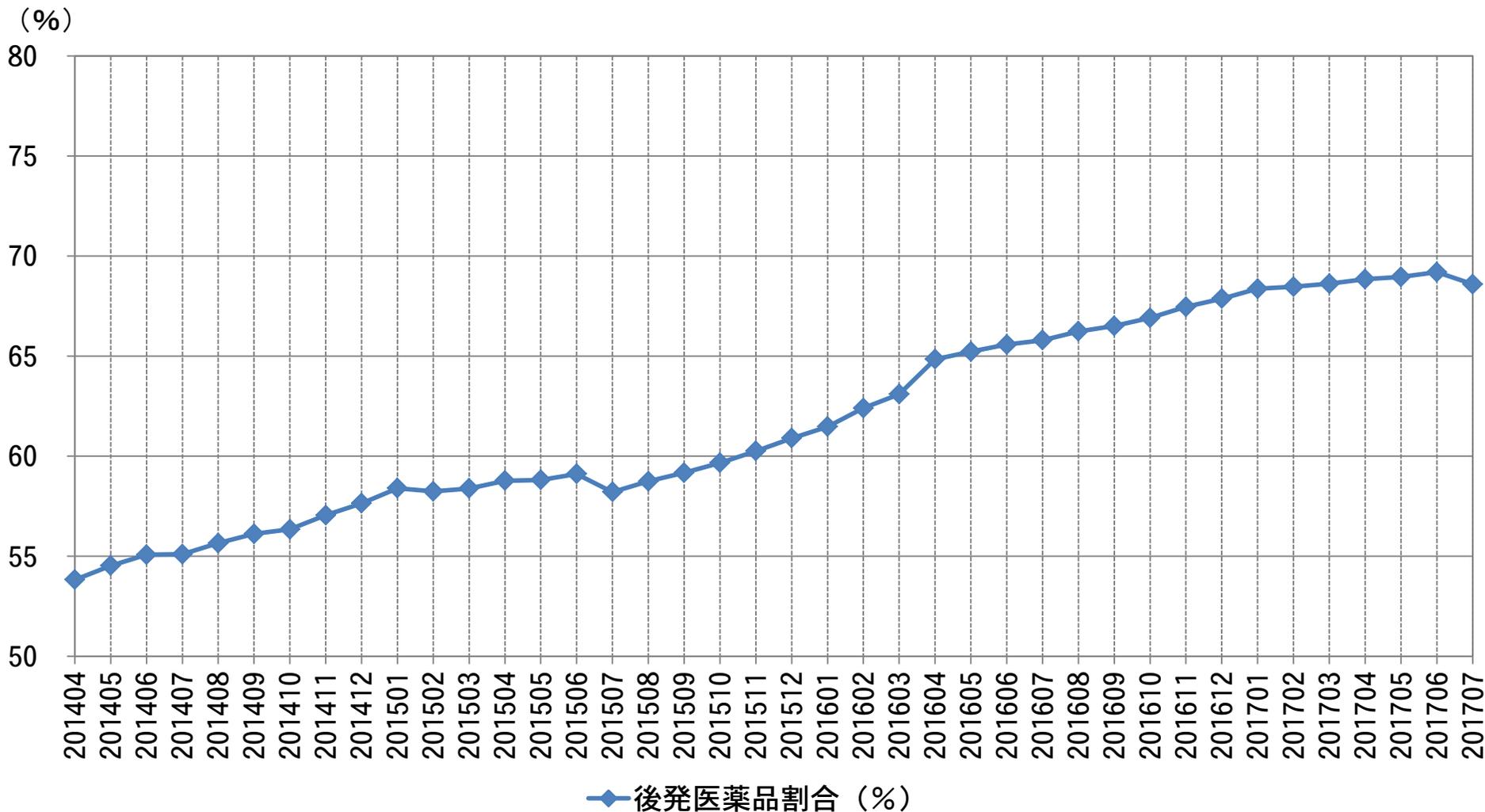


注) 赤点は総数(全国計)

【参考】

後発医薬品割合の推移（2014年4月～2017年7月）

○ 後発医薬品割合はおおむね上昇傾向にあるが、2017年は伸びが小さくなってきている。



注) 調剤レセプト(電算処理分)のデータのみ・数量ベース(新指標)